

116
57

說圖物人國貳拾肆

卷 二 全

西川如見遺書

第三編

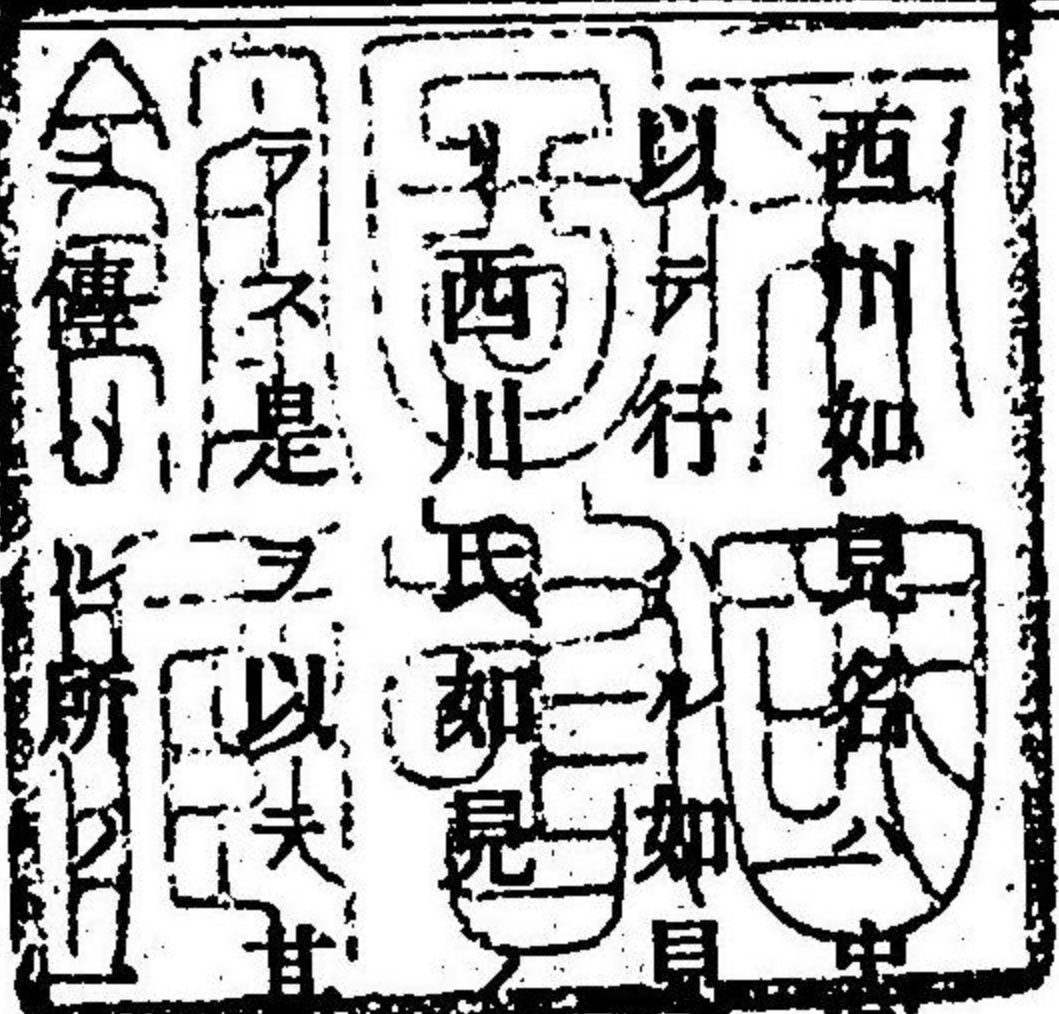
求林齋西川如見著

肆拾貳國人物圖說

東京 求林堂藏版

西川如見傳

細川潤次郎



西川如見傳
 英求林齋ト號シ次郎右衛門ト稱ス如見ヲ
 以テ行ハシメ如見
 或ハ恕軒ニ作り又恕見ニ作ル長崎ノ人ナ
 曾祖正忠ヨリ始メテ顯ル其前ノ譜牒傳ハ
 詳ナルコトヲ知ルニ由ナシ然レトモ其家
 傳ハ所シテ
 右衛門ト稱シ後監物ト改ム肥後ノ國主加藤清正ノ家臣ナ
 リシカ後貿易ヲ業トシテ朝鮮ニ往來シ對馬ニ家ス今ニ此
 家ニ存スル薙刀ノ關兼常ト槍トハ此人ノ遺物ナリト云フ正幸

西川氏傳
實子ナキヲ以テ正忠ヲ養フテ嗣トス正忠ハ本豊後大友氏
ノ家臣吉弘右衛門大夫源鑑滿ノ二男ナリシカ大友氏亡ヒ
テ後西川氏ヲ嗣ク對馬ニ在テ朝鮮人ト貿易ス文祿中朝鮮
ノ役起リ復業ヲ營ムコトヲ得ス之ニ由テ對馬ヨリ長崎ニ
移ル家僕鍛冶ヲ能クスル者アリ種々ノ鐵器ヲ作リテ之ヲ
鬻ク人多ク之ニ倣フ冶工隣ヲ成ス今ノ鍛冶屋町是ナリ家
ヲ治ムルコト勤儉ニシテ家道漸ク興ル曾テ其子忠政ヲ戒
メテ曰ク禾穀ノ實熟スルトキハ頭ヲ低ル人富貴ナルトキ
ハ頭ヲ仰ク爾等宜ク禾穀ニ倣フヘシト西川氏此ヨリ此語
ヲ以テ家訓トス忠政人トナリ質直ニシテ力數人ヲ兼ヌ常
ニ大志ヲ抱ク高久ノ領主松倉氏呂宋ヲ征スル志アリ一商

船ヲ鱧シ商人ト武士トヲ載セ名ヲ貿易ニ托シテ其ノ虛實
ヲ窺ハシム此時忠政商人トシテ呂宋ニ往ク歸ル比ヒ大風
ニ遇フ激浪舵ヲ折ル他ノ舵ヲ以テ之ニ代ヘントスレトモ
船動搖シテ將ニ覆ラントス人起ツコト能ハス忠政獨躍テ
水際ニ至リ死力ヲ出タシ遂ニ舵ヲ代フルコトヲ得テ船モ
亦恙ナキコトヲ得タリ此時忠政ハ船體ニ附着セル牡蠣殼
ノ爲ニ傷ケラレ流血淋漓タリ一船ノ人皆拜謝シテ曰ク我
々性命ノ全キヲ得タルハ實ニ君ノ賜ナリト寛永十三年又
東埔寨ニ航ス利ヲ獲ルコト甚多シ常ニ商船ヲ造ルヲ以テ
業トス家益饒富ナリ數子アリ長忠近早ク没スルヲ以テ二
男忠益家ヲ嗣ク忠益諸般ノ武技ヲ講シ又書史ニ涉ル寛文

三年其家災ニ罹リ貲財蕩盡ス此ヨリ家道稍衰フ年僅ニ三十八歳ニシテ没ス忠益ノ子ハ即如見ナリ如見少ニシテ父ヲ喪ヒ母ニ事ヘテ至孝ナリ年二十餘始メテ學ニ志ス寛文十二年京師ノ儒家南部艸壽長崎ニ來游シ徒ヲ聚メテ教授ス如見其門ニ入り濂洛關閩ノ學ヲ修メ又天文曆算ノ學ヲ講シ先儒ノ諸說及外國ノ說ヲ參酌シテ發明スル所多シ此ヨリ先キ長崎ニ林吉左衛門ト曰ヘル者アリ天文曆算ノ學ニ精シ正保中耶蘇教徒ノ獄ニ連坐シテ刑セララル其門人ニ小林謙貞向井元舛小野昌碩吉村長藏胡麻屋了益朝日立育本山作左衛門金屋孫右衛門三島吉左衛門等アリ謙貞ノ門人ニ關莊三郎盧艸碩等アリテ各其學ヲ傳フ如見ノ此學ニ

於ケル恐クハ亦林氏ノ學ニ本ツキテ諸家ノ說ヲ折衷セル者ナラン如見ノ著述ハ大抵版ニ鏤メテ世ニ行ハル虞書曆象俗解二卷教童曆談三卷天文義論二卷四十二國人物圖二卷華夷通商考五卷天文精要八卷長崎夜話草五卷町人囊七卷百姓囊五卷日本水土考一卷天文和歌注一卷天經或問注三卷天學名目鈔一卷水土解辨二卷幹枝數源二卷氣運論一卷右旋有無論二卷天人五行解二卷運世年卦考一卷紫清粹語一卷等ノ二十餘種アリ如見ノ二子長ヲ正昌ト曰ヒ次ヲ正休ト曰フ共ニ家學ヲ承ケテ著作ノオアルヲ以テ其父ヲ助ケテ編纂ニ從事セリ如見ノ晚年將軍有德公天文曆算ノ學ヲ好マレタルヲ以テ如見ノ名ヲ聞及ハレ享保三年七月

如見ヲ召シテ江戸ニ至ラシメ時ニ諮詢スル所アリタリ然
レトモ尊卑懸隔セルヲ以テ將軍ハ大吏ニ命シテ其意ヲ傳
ヘシメ如見モ亦大吏ニ對シテ其ノ見ル所ヲ述フルノミナ
リキ如見江戸ニ留ルコト久クシテ辭シテ長崎ニ歸ル九年
八月十日年七十七ニシテ没ス今其ノ遺書ヲ閱スルニ往々
誤謬アルヲ免レスト雖モ當時學術ノ講究未タ盡サ、ル所
アルハ何人ニモ免レサル所ナルヘシ世ニ西洋學術ノ我邦
ニ傳ハリシハ新井君美ニ始マレリト謂フト雖モ如見カ西
洋學術ヲ傳ヘタルハ其前ニ在リテ創闢ノ功自ラ掩フヘカ
ラサル者ナリトス

余嘗テ長崎ニ遊ヒ西川氏ニ寓スルコト數年因テ如見ノ

事ヲ聞クコトヲ得タリ且諸書ニ載セタル如見ノ事蹟ニ
付テ其ノ西洋學術ヲ我邦ニ傳フルニ於テ大功アルヲ知
ル爲ニ其ノ小傳ヲ作り之ヲ筐中ニ藏スルコト久シ會如
見ノ裔孫忠亮如見ノ遺書ヲ再版シ余カ一言ヲ求ム乃此
篇ヲ錄シテ序言ニ代フト云フ

明治三十一年十一月

細川潤次郎再識

先民傳所載西川忠英傳

西川忠英。號如見。少孤。事母孝。性不喜華麗。年二十餘。始志于學。寬文十二年。南部帥壽來。此招諸生讀書。立山於時。忠英從之遊。篤信濂洛關閩之學。並仰希其行事。而步趨焉。人服其文行兼優者。以此。又講於天文曆數。由古聖賢書。暨先儒諸說。並戎蠻故老之所傳。多所發明。筆之爲書。以藏于家。年五十。屬業長子。自爲退隱計。營別業于山莊。娛志林泉。殆將老矣。然於學不少廢。享保己亥。徵辟有加。以其能天文學也。忠英年已七十二。乃至東府。承顧問者數十條。特蒙賜賚。歸鄉奉旨錄呈。所著天文地理之書。厥後五年。以甲辰秋九月卒。所著兩儀集說九本。怪異類纂二本。右旋有無論。幹枝數原。天人五行解。

運世年卦考。氣運盛衰論。各一本藏家。其餘如天文議論等書。
又有十二部行世。

緒言

余カ九世ノ祖諱ハ忠英如見ト稱シ求林齋ト號ス世々長崎
ニ住シ商販ヲ業トス如見君ニ至リ學ヲ好テ廣ク和漢ノ書
籍ニ涉リ又外國ノ事情ニ通曉シ特ニ天文曆算ノ學ニ精シ
ク著述ノ多キ二十餘種ニ至ル皆版ニ鏤メテ世ニ行ハレタ
リ其詳ナルコトハ細川先生作ル所ノ如見傳ニ在リ爾後百
七十年許原版已ニ亡ヒ印本漸ク減ス想フニ此ノ如クニシ
テ久キヲ經ハ遺書ノ存スル者加少ク遂ニハ得テ見ルヘカ
ラサルニ至ラントス因テ多方ニ訪求シテ虞書曆象俗解、天
文義論、四十二國人物圖、華夷通商考、天文精要、長崎夜話草、町
人囊、百姓囊、日本水土考、天經或問注、天學名目鈔、水土解辨、運

氣指南後編、七曜右旋辨論、五行解、建正辨、兩儀集說ノ十七種ヲ得タリ之ヲ活字ニテ印刷シ以テ流傳ノ廣ク且ツ遠カラシコトヲ謀ル其他ハ當ニ得ルニ從テ再版スヘシ凡ソ子孫タル者ノ常情トシテハ祖先ノ勤勞ヲ湮滅セシムルニ忍ヒス其ノ遺書ノ如キハ祖先精神ノ凝結セル所ナルヲ以テ必ス之ヲ傳ヘサルヘカラス抑如見君ノ著述當時ニ在テハ固ヨリ有用ナレトモ今日ニ在テハ不用ニ屬スル者少シトセス然レトモ亦後人ノ參考ニ供スヘキ者ナキニ非ス讀者其ノ取ルヘキヲ取り捨ツヘキヲ捨テ、可ナリ

明治三十一年十一月

西川 忠 亮 謹識

西川如見遺書終言

西川如見遺書終言

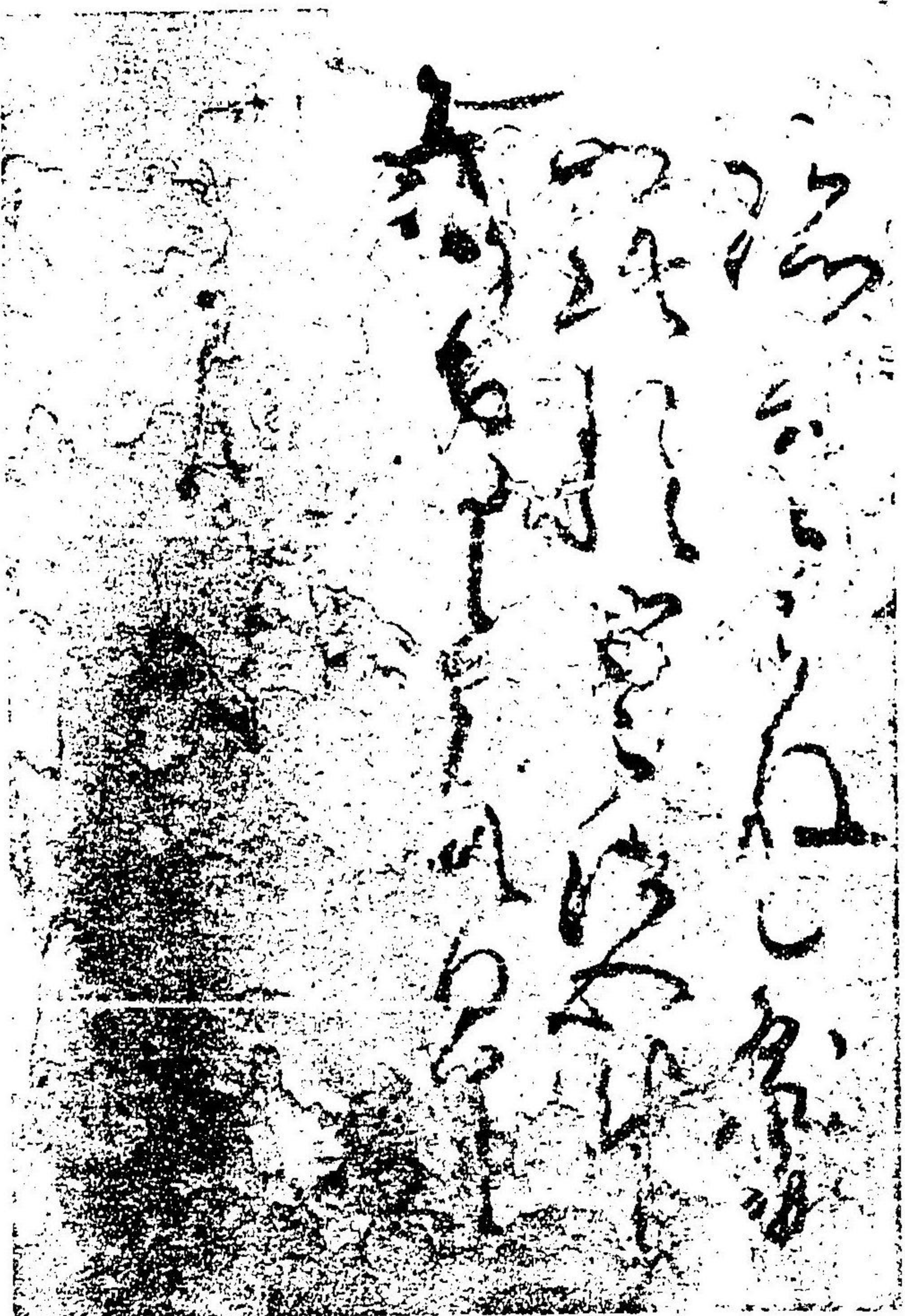
西川如見遺書終言

西川如見遺書終言

西川如見遺書終言

Handwritten text in cursive script, arranged in vertical columns from right to left. The characters are fluid and connected, typical of a personal letter or a specific style of calligraphy.

Handwritten text in cursive script, arranged in vertical columns from right to left. This block contains a dense amount of text, possibly a longer letter or a collection of notes.



如見君ノ墨蹟余カ家ニ傳ハラス盧高朗君ノ家ニ如見君
ノ手束一通ヲ藏ヒルヲ以テ請フテ之レヲ寫眞版トシ以
テ卷首ニ載ス此手束ハ如見君ヨリ盧艸彦ニ贈レル者ナ
リ艸彦ハ即高朗君ノ先世盧艸拙ナリト云フ

西川忠亮謹識

題四十二國人物圖之首

凡聞殊國之名者，必當詳問其俗之所好，如何苟其善耶，記之以爲吾身之法；苟其不善邪，亦記之以爲吾身之戒。豈宜漫問其國人物如何，土產品類如何，地之方位，寒暖廣狹大小如何，而止邪？此圖原出於紅毛蠻所傳，蓋其躬自交易，或被風飄至。

或耳所確聞者也起震旦迄長人計四十
一國矣而今謂之四十二國圖者何也吾
邦之人後於震旦一國竝出大明大清兩
朝人物故更以四十二國名之耳大清得
天下未及百年吾國耆老猶獲觀故明之
人物昔大明之於震旦其在祖宗夙興夜
寐兢兢業業君臣相勉此一時之所好也

逮其子孫所好相反燕晏偷惰上下廢業
變起不圖社稷失守遂致大清不勞兵力
坐有四百江山方今朝政若何直言無隱
如張鵬翮者寵遇益隆廉吏孤立如施歪
者官階愈貴戰功卓絕如藍理積有虐民
之事則褫職爲庶人屢巡狩於江南亦避
暑於關外其取捨好惡之狀出於賈客之

談者大略類此夫所謂學問者非獨目觀經傳子史爲然而已其所見聞苟有益於吾身者皆可以爲學問也是以禹拜昌言大舜好察邇言孔子曰三人行必有吾師焉展卷此圖閱其人物讀其圖說由圖說而考其風俗由風俗而論其所好則四十二圖善惡邪正無不歷歷可見善者記之

以爲吾身之法惡者記之以爲吾身之戒孰非吾師哉或曰子討論諸國理固然矣若所謂善者記之爲法不善者記之爲戒是言也未能無疑夫善之足以可法惡之足以可戒者其孰明於典籍乎哉今子不考之典籍而惟圖是考豈圖之所載勝於典籍邪子曰非是之謂也唐虞三代之時

既有典籍行世，尚矣。然當時之聖，猶謂牖戶座席，几杖盤盂，皆可以為警戒，勒銘而備觀焉。是圖所載殊國風俗，其為警戒者，顧不逮於牖戶座席邪。

正德甲午秋八月

劉善聰書

總目錄

大明	大清	鞮	鞞
朝鮮	兀良哈	琉球	
東京	答加沙谷	呂宋	
刺答蘭	瓜哇	蘇門答刺	
暹羅	羅烏	莫臥爾	
百兒齊亞	亞爾默尼亞	亞媽港	
度爾格	馬加撒爾	槃朶	

亞費利加	加拂里	為匿亞
比里太尻亞	莫斯科米亞	工答里亞
太泥亞	翁加里亞	波羅尼亞
意太里亞	齊爾瑪尼亞	拂耶察
阿蘭陀	諸厄利亞	撒兒木
阿勒戀	加拿林	亞瓦的革
伯刺西爾	小	長
	人	人
總計四十二國		

四十二國人物圖說

渾地五大洲

崎陽 西川淵梅軒求林志

亞細亞洲

唐土天竺韃靼等屬此大洲

利未亞洲

自天竺西方至南方之界

歐羅巴洲

在於天竺之西北一界

亞墨利加

北南洲

在於日本東南之大界或分南北洲

墨瓦臘尼加

自赤道至南極下之一大界

已上



大明



大明は唐土なり世々國號を改る故に定りたる號なし國人
みつから稱して中華といふ十五省を定めて二京十三道を
立るは大明の太祖帝なり日本より唐土と號する事は大唐
の世日本に親睦繁かりし故なり又伽羅と號するは古日本
へ異國より來れる始は三韓の内大伽羅國の人なりし故に
異國を指て伽羅と號す此故に漢唐韓の字皆伽羅と訓す又
支那といふは天竺方より稱せし名にて梵語なりとそ震旦
も支那の轉音なりといへり故に紅毛等の外國も唐土をも
つて智以那と號せり即支那也
北極地を出る事四十二度より十九度に至て南北相距る事
二十三度なり

大清





大清は即今の唐土の號なり天子の本國鞮靴なる故に大明の世の風俗を改む此故に二國の圖を分て古今の風俗を志らしむ二京十三道文字經史學法前代に隨て變改せず

鞮靴





韃靼は本名韃而鞞といふ今は而の字を略す其國東西黑白の二種有て屬類甚多く國界四十八道に相分れて大國也古の胡國といひ或は蒙古と云も皆此國の別號なり南界は唐土に交接し北方は冰海に近く大寒地にて四季晝夜の長短大に他方と同じからざるの所多し最富饒の國也といふ國人弓馬を好み勇強の風俗なり北極地を出る事四十三度より六十四度に至て南北に短く東西に長し

朝鮮





朝鮮は古の三韓にて馬韓辰韓辨韓の地也中古新羅百濟高麗と分ち末代合て朝鮮と號す國八道あり寒國なり京畿道は北極地を出る事三十八度釜山浦は三十六度なり

兀良哈



兀良哈は朝鮮の北東にある寒國なり良の字を良とするは
誤り此國甚朝鮮に近しといへり或曰女直國の屬也と北極
地を出る事凡四十二度

琉球



琉球は南海中の島國なり古は龍宮といふ中古流求といひ
末代に琉球とす煖地なり北極地を出る事二十五六度

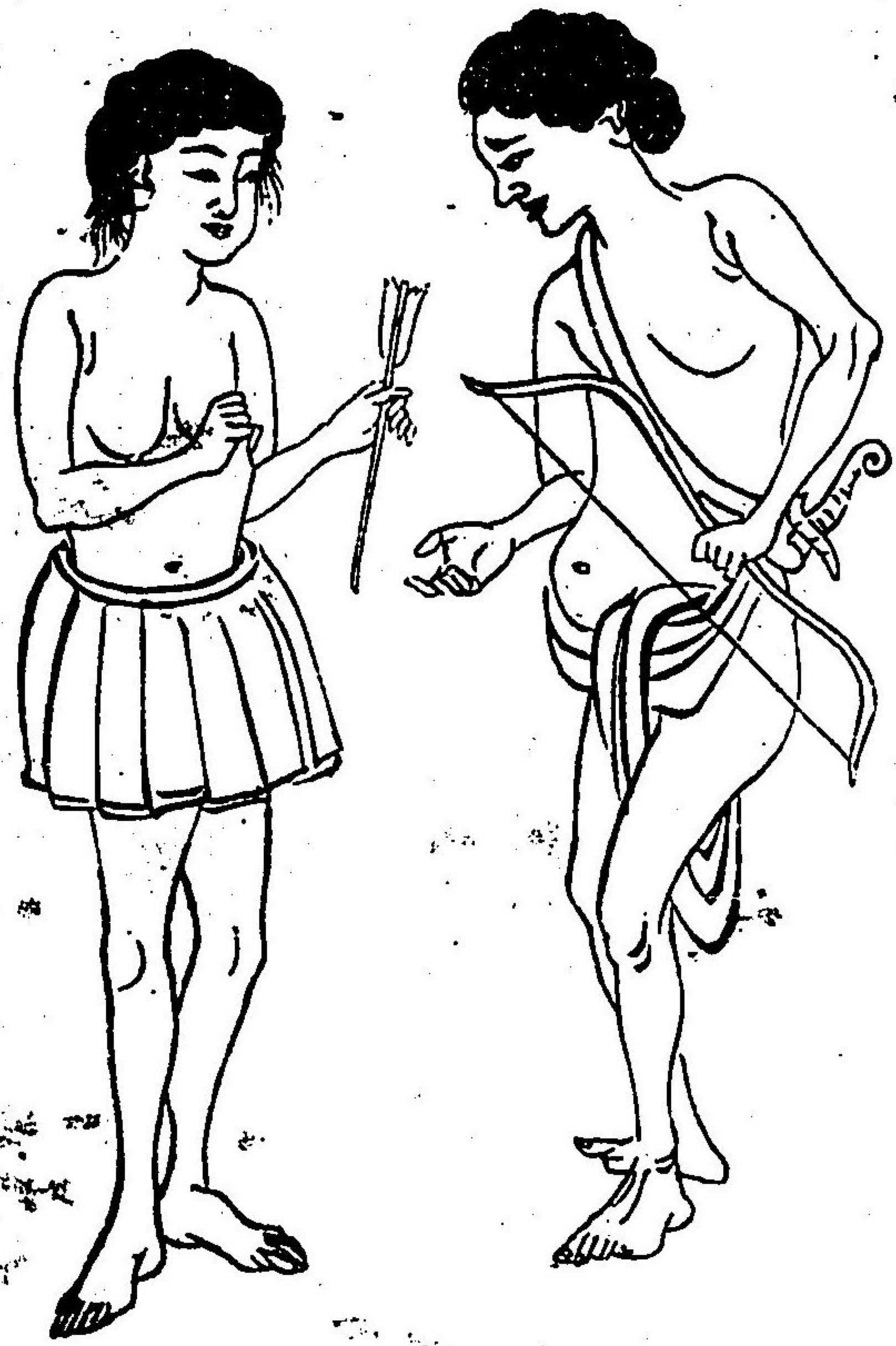
東京





東京は古より唐土に屬する國にて中華の文字を用ゆ詞は
尤別なり古唐土より交趾といひしは此國なり末代に至て
兩國にわかれ東邊を東京といひ南邊を廣南といへり今は
廣南のみを交趾と號す風俗相同しき故に別に交趾を圖さ
すいつれも煖國也 北極地を出る事凡十五六度

答加沙谷



答加沙谷は唐土東南海中の島國也むかし阿蘭陀人住居せし時臺灣と號し國姓翁居住已後東寧と改む煖國なり地民の風俗は甚賤く常に麋鹿を獵するを産業とす農民は甘蔗西瓜を種る事を産とす米麥一歲に二たひ收む北極地を出る事二十二三度

呂宋



呂宋は臺灣より南方海中にある島國也熱國にて濕毒深き地也といふ末代邪法の屬類と成てかの國の者多く住す地民は風俗はなはた賤と也

刺答蘭



刺答蘭は日本の東南大海の中にある島國にて熱國也昔蠻船諸國往來の節船を寄て見たりといふ末代紅毛等到る事ありや詳ならず

呱哇



呱哇は唐土西南方に當て遠き國なり大熱國にて四時寒暑
の次序唐土日本等の國と相反して甚別なり今日本に來る
阿蘭陀人居住の咬溜巴も此國の北端なり故に別に人物を
圖さず 北極は見之ず南極を出る事六度或は七度

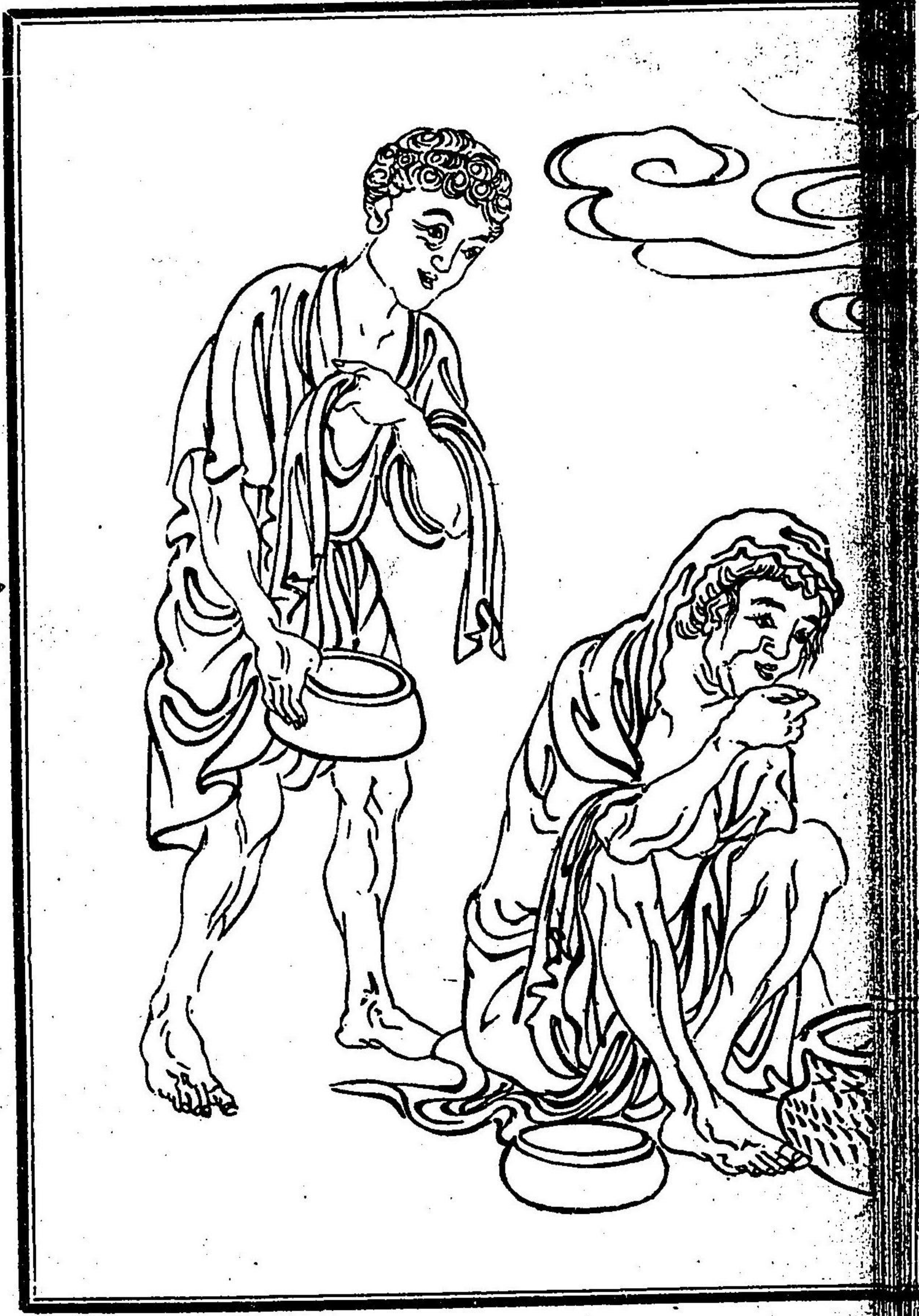
蘇門答刺



蘇門答刺は或はさまだらともいふ呱哇國の北にある島國也是も大熱國にて人物風俗賤く國主なく面々に地を領して争はず此國金銀を産すといへとも民多く取をせず偶金塊を得るとあれば旅人に交易すといふ南北の兩極星を見る又此國の東に淳泥國あり人物風俗相同く常熱の國也故に別に載せず呱哇蘇門答刺淳泥等は墨瓦臘泥加に近し

暹羅





暹羅は南天竺摩羯陀國の内也唐土より西南に當れる熱國にて東埔寨も同類の國也最佛法を尊敬す東埔寨は暹羅より暑熱強く人物甚賤し北極地を出る事暹羅は十四度東埔寨は十二度

羅烏



羅烏は暹羅に近き類國にて摩羯陀國の内也尤熱國にて人物暹羅に異なる故に別にこれを圖す此圖多く斑文竹を生す

莫臥爾



莫臥爾は回々を以て莫臥爾とするは誤なり是も南天竺の
内にて第一の大國也十四道有て寶貨富饒の國也といへり
暖國なれども氣候はおよそ唐土の廣東に等しと也 北極
地を出る事二十二度

百兒齊亞



百兒齊亞は亞細亞の内天竺の西邊なる大國なり獸類土産
多く四季有て豊なる國也といふ百兒の字又は百爾とす

亞爾默尼亞



亞媽港



亞爾默尼亞は西天竺の西に在て四季ある國なり但し寒國也凡此邊の國上國多し古は西天竺に屬せりといふ

亞媽港臥亞波爾杜瓦爾已上三國は皆邪法國の屬にて人物
風俗相同しといへり亞媽港は唐土南海の中にあり臥亞は
天竺の南邊に在て煖國なりといふ波爾杜瓦爾は遙に西方
歐羅巴内にて四季ある國なりと也

度爾格



度爾格は天竺より西北にあたる國にて四季あり人倫勇
強にして武を好める國なり鄰國是がために併せらる多
しといふ

馬加撒爾



馬加撒爾は呂宋の南にあたる島國にて大熱國人物賤し南
北の兩極星を見る事蘇門答刺國に同じ

槃
朵



槃朶ハナカは蘇門答刺に近き島國也熱國にて風俗紅毛に似て又別也尤勇悍を好むといふ

亞費利加



亞費利加は利未亞の内にある大國也四季ありといへども
暖國にて一年の間寒氣少く米麥肥饒なる國なり

加拂里





加拂里は利未亞の内にて大熱國の大國也風俗賤く下民は
面色甚黒く剛強にして死を恐るゝ事を知す愚直にして他
人の奴僕と成ては能主人に忠をなせり此故に歐羅巴の諸
國此國の人を買取て奴僕とす此國の本國を莫訥木太波亞
といふ

爲匿亞



爲匿亞利未亞の内大國の熱國也武勇を專とし風俗は賤し海上甚遠き國也

比里太尼亞



比里太尼亞は利未亞の内にて歐羅巴よりは南方地中海を隔たる國也最大國にて四季正しき國なりといふ

莫斯科米亞



莫斯科米亞は歐羅巴の内阿蘭陀の東にあり大國にて大寒國也異類の獸畜多き水土也石火矢は此國を根本とす故に多くこれありといへり此邊の諸國總て北極地を出る事五十度或は六十度の間也

工答里亞



工答里亞は莫斯科米亞に並たる國にて風俗又別也尤大國
 にて寒國也石火矢は此國と莫斯科米亞とより始れりとい
 ふ此國の馬は皆驢駝なり

大泥亞



大泥亞は歐羅巴の内にて波羅尼亞の東にあり大寒國なり
 最大國にて南北に長く南は地中海に近く北は極邊に近く
 して夏の節夜をかはた短く晝をなはた永し冬の節は夜甚
 永く晝甚短し海魚多く山林獸類諸國にすぐれ五穀寶貨豊
 饒にして天文曆象の測器此國を最一とするよし聞傳ふ

翁加里亞



翁加里亞はうんかりともいふか此國歐羅巴の内に在て産物とあはた豊饒にて牛羊殊に繁殖すといふ最寒國なり

波羅尼亞



波羅尼亞は歐羅巴の内にて阿蘭陀國の東大寒國なり此國
の人禮義仁和の風俗にて國中絶て盜賊なし平生盜賊ある
事を去らす國王と大臣と古來の國法を守て少も變ずる事
なしといふ又此國の東南天竺の西の境に當て如德亞とい
ふ國あり六千年以前聖人在て國法を立たり其記録今に至
て失ふ事なくして國王大臣其記録を守て國政を執て過事
なしといふ最此等の國豊饒の土地なりとそ

意太里亞



意太里亞以西把尼亞此二國歐羅巴の内にて大國なり四季
ありといふ意太里亞の都を羅馬といへり一國なりいつれ
も邪法國なりと聞傳ふ

齊爾瑪尼亞



齊爾瑪尼亞は阿蘭陀國に並たる國にて寒國の大國なり人物風俗阿蘭陀に相類す

拂郎察



拂郎察は阿蘭陀國に近し武勇軍法に長して近國是に併ら
れ屬國となるもの多し歐羅巴に於ての大國にて富饒の國
也最寒國也 此邊の國北極地を出る事五十餘度



十九

阿蘭陀



萬國人物圖

阿蘭陀は歐羅巴北海の地にあり齊爾瑪尼亞の西鄰拂郎察の北に相界ふ國なり尤寒國にて南北相距る事三度の小國なり日本唐土の西北に當て日本より海上一萬二千里あり北極地を出る事五十四五度或五十六度

諸厄利亞



諸厄利亞は阿蘭陀國の西海中の島國也尤寒國にて風俗阿
蘭陀人に似て其種又異あり歐羅巴に屬す

撒兒木



撒兒木は略してさともいふ此國も西天竺の北方に在て
最寒國也國人武勇にして獸類となはた多き水土なり

阿勒惹



阿勒戀は南亞墨利加の内の大國にて其人武勇を好み此
國に世界第一の大河有てひろき日本の數十里に相あたる
といへり熱國にて日本よりは東南にあたり阿の字を略
して勒戀ともいふ

加拿林



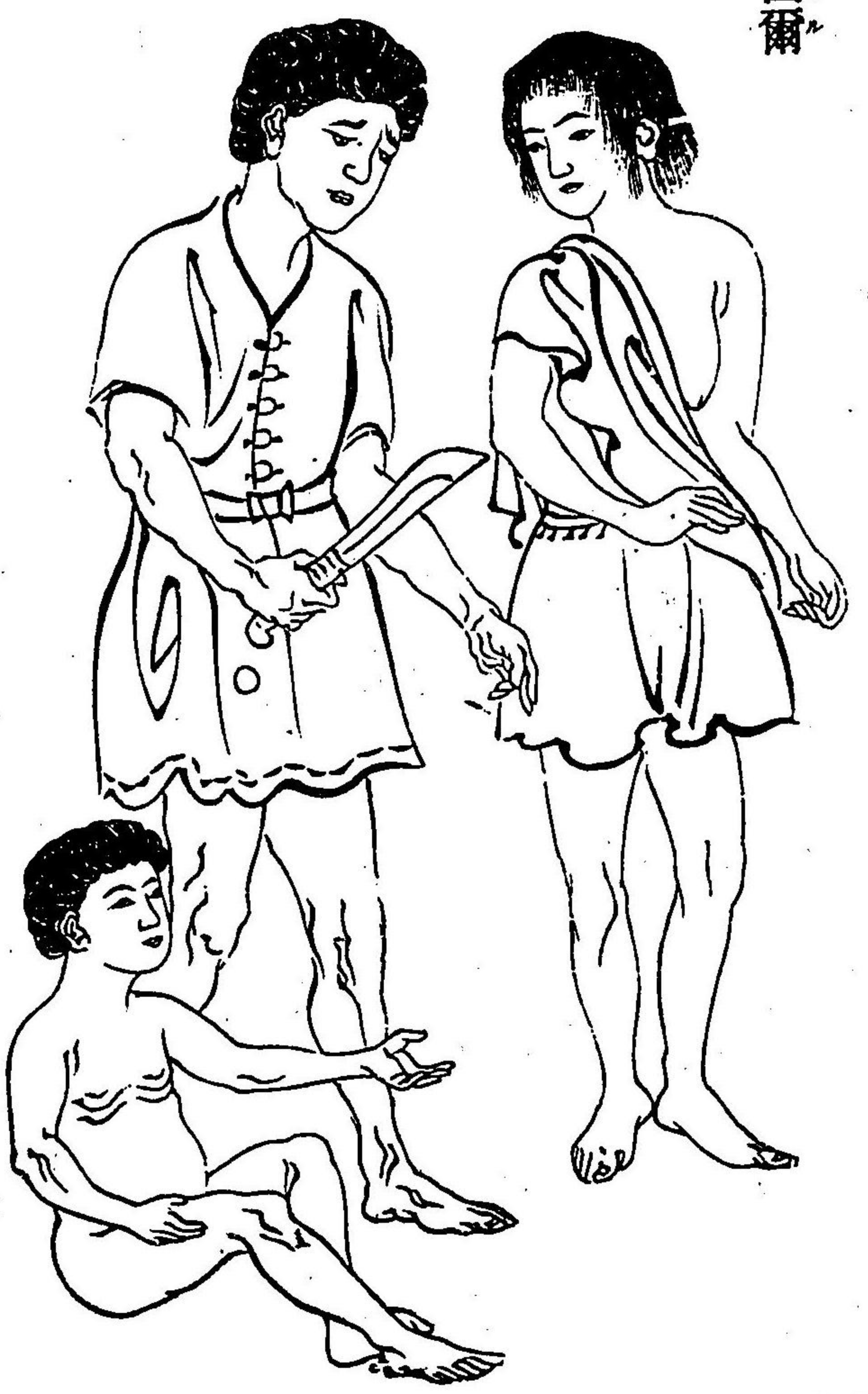
加拿林は亞墨利加の内にある大國也四季有といへ共暖氣の國にて賤しき風俗なり或はカ納連とも書す

亞瓦的革



亞瓦的革馬瓦革ともいふ南亞墨利加の内にあり四季在て
暖國なり人物勇強なりといへり淡婆姑草は此國より始と
いへり

伯刺西爾



伯刺西爾は南亞墨利加の東邊に在て熱國なり人倫の作法
にあらず奸勇にして人を殺し炙り食ふといふ今代は諸國
の人往來し交易する事多き故に少く人倫の作法を知り人
を食する事なしといへり

小人



小人は波智亞といふ國也歐羅巴東北の隅邊北の方冰海に至れる地也大寒國にて半年晝のみ續き半年は夜のみ續くと云人の長一尺二三寸と云傳ふ然れ共實は二尺有餘也といへり唐土に短人と云是なり

長人





長人は智加といふ國也南亞墨利加の内にあり此國に相並
びて巴太温といふ國も人間長大なりといふ凡其長此方の
一丈二尺といへりてつれも日本の巽の方にあたりり四季
あり風俗尤勇強にし弓矢を好むといへり其矢長さ六七尺
といふ

右四十二國人物畫圖は當時蠻人紅毛等交易往來ノ諸國
人物ヲ以テ彼國ノ畫工ノ圖セシヲ寫シテ長崎畫師ノ圖
畫セシヨリ世ニ弘マル事ト成ヌ此人物ノ外猶又奇異ノ
國多シト云ヒ蠻人紅毛ノ往來無シテ未々其傳不分明者
素除之其始四十國トス後人増加エテ四十二トス故以四

十二名之者也圖考ハ長崎古老ノ談説ヲ以テ撰述焉

享保五年庚子孟春穀旦

東武江都

淵梅軒藏板

後序

長崎求林齋西川先生生文恬武嬉之世博學多識夙通海外事
情如華夷通商考之著其益於世爲不尠焉而最邃天學故其所
撰二十餘種係天文曆數者居多何其偉哉輓近文化大開西學
勃興固非當時之比也然而先生在二百年之前既著有用之書
如此蓋其窮微探蹟之功究不可沒也先生裔孫忠亮君蒐輯其
遺著有年于茲將再印虞書曆象俗解等十數種余感君志之篤
焉乃敢校訂魯魚因題一言于後以寓慕藹之意云爾

明治三十一年十一月

晚生佐藤忠淳拜識

116
579

明治三十一年十二月二十日印刷
明治三十一年十二月廿三日發行

人物圖說

定價金五十錢

編輯者

西川忠亮

東京市京橋區築地二丁目
六番地

印刷者

星野諤次郎

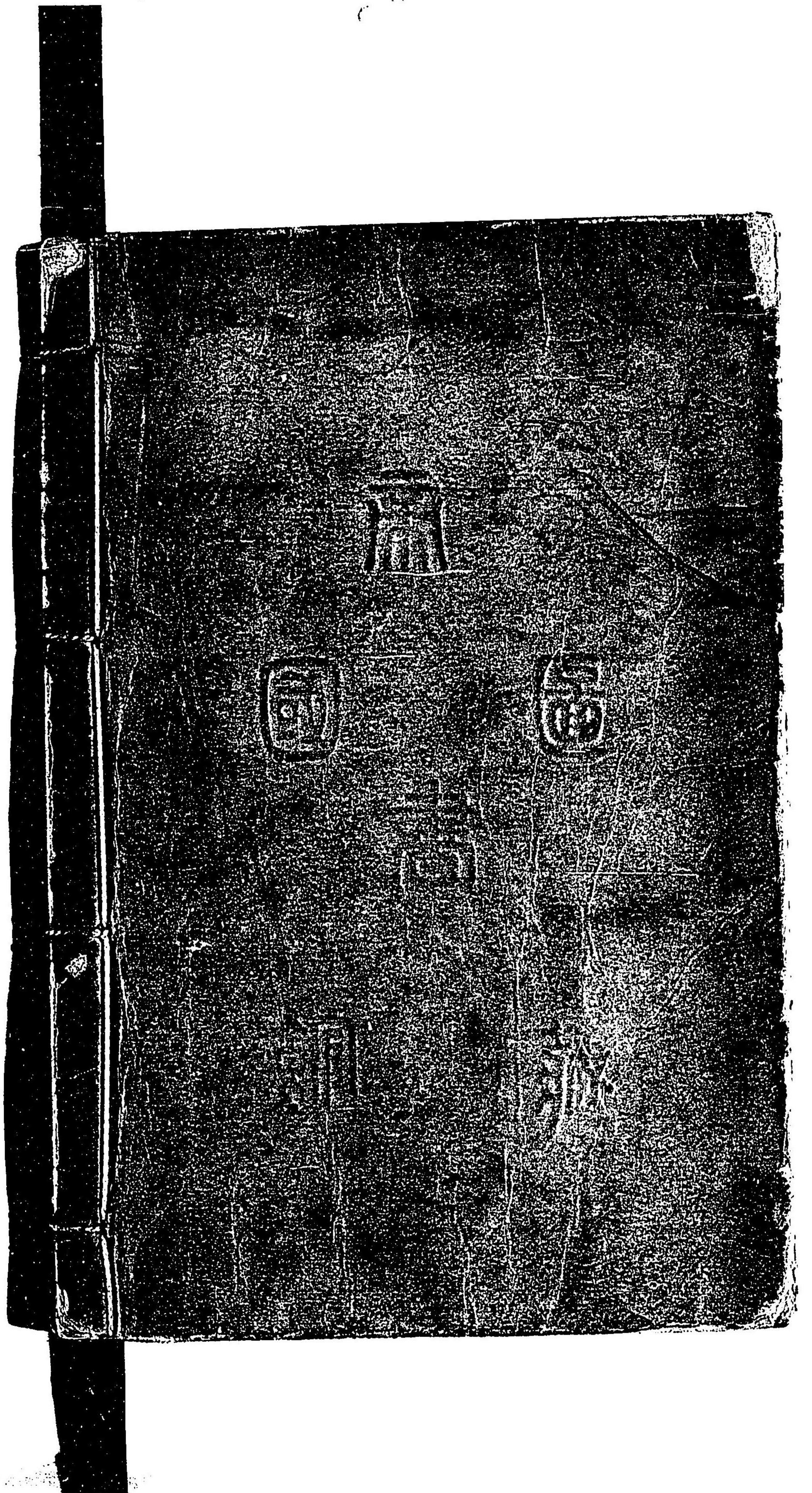
東京市京橋區築地二丁目
十六番地

印刷所

東京印刷株式會社

東京市日本橋區兜町
二番地

116
17
57



021952-000-4

116-57

四十二国人物図説

西川 如見(忠英) / 著

M31

ADA-0202



116
117
117

川如見遺書

三